

リハビリテーション専門職養成におけるコンピテンシー診断の比較<第3報>

堀本ゆかり¹⁾ 丸山仁司²⁾ 久保 晃³⁾ 畦上恭彦⁴⁾

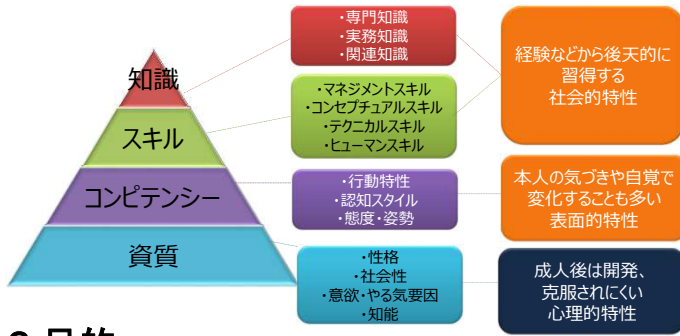


- 1) 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科
- 2) 国際医療福祉大学 大学院
- 3) 国際医療福祉大学 保健医療学部 理学療法学科
- 4) 国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科

1. 研究の背景

コンピテンシー概念は、組織開発・管理などの経営管理領域で重視されてきたが、近年、医療安全および医学教育改革の双方の観点から、専門職業人の行動様式としての実践能力を測定する指標として注目されている。

医療専門職が必要とするコンピテンシーについて、議論が深まり始めものの、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士領域では、未だ明らかにされていない。



2. 目的

社会人予備軍である言語聴覚学科・作業療法学科及び理学療法学科3年生のコンピテンシーを比較し、その相違性と類似性について明らかにする。

3. 対象

- 対象群：国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科 3年生18名 (男性 5名 女性13名)
- 比較群：国際医療福祉大学 保健医療学部 作業療法学科 3年生35名 (男性11名 女性24名) 2016年データ
- 国際医療福祉大学 保健医療学部 理学療法学科 3年生50名 (男性28名 女性22名) 2012年データ

対象者には研究の目的、方法について文書と口頭で説明し、署名で同意を得た。国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認済 (15-10-65) 開示すべき利益相反はない。

4. 方法

文化放送キャリアパートナーズ社製コンピテンシー診断「SPROUT」

<特徴>

- 社会人基礎力に対応
- 66の質問項目
- 凡そ15分で実施
- 検者の思惟の影響を受けにくい設計



統計処理：日本科学技術研修所製JUSE stat-works v.4.0 一元配置分散分析で比較対象を確認した後、多重比較を行った。(有意水準5%)

5. 結果

<コンピテンシー 6領域>



<強み>

3 学科共通：「要望に応える力」と「きちんとやる力」

<弱み>

3 学科共通：「新しい価値をつくる力」

<コンピテンシー 6領域>

6領域	OT	PT	ST	検定
	Mean±SD	Mean±SD	Mean±SD	
要望に応える力	5.9±1.1	6.2±1.0	5.9±1.3	n.s.
新しい価値をつくる力	4.8±0.9	4.8±0.8	4.9±0.8	n.s.
何かを変える力	5.2±1.2	5.3±1.0	4.6±0.8	n.s.
きちんとやる力	5.9±1.0	5.4±1.0 *	5.8±1.2	n.s.
自らを活かす力	5.2±1.2 *	5.6±1.4	4.9±0.8	n.s.
互いを活かす力	5.1±1.0	5.4±1.3	4.8±1.5	n.s.

* : p<0.05

<下位尺度 18因子>

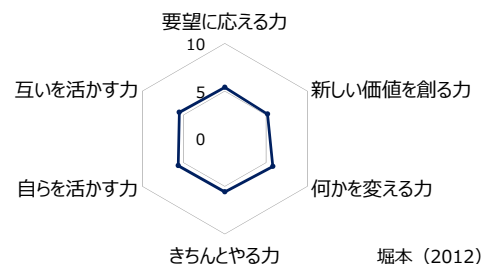
6領域	下位尺度 18因子	OT	PT	ST	検定
		Mean±SD	Mean±SD	Mean±SD	
きちんとやる力	計画をやり抜く力	5.7±1.2	5.5±1.8	5.2±1.6	n.s.
	必要なものをやりくりする力	5.9±1.5	5.2±1.5	5.8±1.7	n.s.
要望に応える力	手順を考える力	6.1±1.8	5.5±1.4	6.1±2.0	n.s.
	相手の思いやる力	6.0±1.8	6.3±1.3	5.7±1.8	n.s.
新しい価値をつくる力	相手のために役立つ力	5.7±1.5	6.5±1.3	6.2±2.1	n.s.
	相手を協力する力	5.8±1.5 *	6.0±1.5	5.7±1.5	n.s.
何かを変える力	物事を理解する力	4.3±1.8	5.2±1.7	4.8±0.9	n.s.
	情報を集める力	5.4±1.5 *	4.9±1.5	5.1±0.8	n.s.
自らを活かす力	アイデアを生み出す力	4.7±1.5	4.3±1.0	4.8±2.1	n.s.
	物事を判断する力	5.5±1.7	6.0±1.6	5.3±1.0	n.s.
互いを活かす力	作戦を立てる力	4.7±1.4	5.0±1.5	4.2±1.6	n.s.
	物事にチャレンジする力	5.3±1.5	5.2±1.6 *	4.6±1.5	n.s.
互いを活かす力	聞いて話す力	5.5±1.5	6.2±1.6 *	5.2±1.5 *	n.s.
	時間や期限を守る力	4.6±2.1 *	4.8±2.3 *	4.9±1.7	n.s.
互いを活かす力	変化に対応する力	5.2±1.3	5.6±1.5	4.3±1.2	**
	周りを引っ張る力	4.2±1.9 *	4.9±2.0 **	4.0±1.7	n.s.
互いを活かす力	人を育てる力	5.7±1.8	6.1±1.8	5.2±2.0	n.s.
	周りを活気づける力	5.5±1.5	5.2±1.8	5.1±2.0	n.s.

* : p<0.05

6. 考察

- 3年生は評価実習を経験し、医療専門職としてのプロフェッショナルリズムを自分のこととしてとらえる時期である。
- 理学療法学科学生のコンピテンシーは3年生までに形成され定着し、4年生で充実することを先行研究で確認 (堀本：2012)
- 理学療法白書2016では、70%の理学療法士が学生の学力の低下と態度の悪化があると報告している。
- ヒューマンスキル教育は3年生までに重点的に行うと効果的
- 3 学科のヒューマンスキルは大きな差はない。
- 臨床経験 5 年目以上の理学療法士のデータと近似している。

<臨床経験 5 年目以上の理学療法士のコンピテンシー >



- 医療専門職のプロフェッショナルリズム教育は今後、重要な視点であり、ヒューマンスキルの高い学生の育成が望まれる。

7. 結論

3 学科の学生のヒューマンスキルには大きな差がなく、この領域のプロフェッショナルリズム教育は協同して実施できる可能性がある。